



# 黒小だより



令和8年5月29日

第2号

【今年度の重点目標】 ～豊かに表現し、学びを深める子の育成～

○学ぶ楽しさと成長を実感できる学校 ○元気の挨拶と思いやりにあふれる学校 ○保護者・地域の信頼で結ばれる学校

## 引き継がれていくべきもの

校長 半田 健一

5月はお忙しい中、個人懇談や、引き渡し・まとめり下校訓練へのご協力をありがとうございます。初めての訓練で迷惑もおかけいたしました。そのことにより課題が明確になりましたので、改善してまいります。余市町は比較的自然災害が少ない地域と言われますが、昨年は北海道で初めて線状降水帯発生情報が発表されるなど、これまで起こらなかったことが各地で起こっています。学校では今後も訓練や防災教育を重ねていきますが、ご家庭でもいざというときの避難方法や避難場所の確認などお子さまと話題にしていただけるようお願いいたします。

学校では5月の初めに、児童会企画「1年生をむかえる会」が開催されました。朝の短い時間でしたが、短い時間だからこそ、何を伝えるか、どう伝えるかに知恵をさぐらねばなりません。そういう面では、話の長い校長よりも、ショート動画や短文投稿に触れる機会の多い現在の子どものセンスは磨かれています。3～6年生はテンポよくクイズ形式やコント風の演出で、学校に興味を持ってもらい、学校生活のルールをわかりやすく伝えていました。あいさつの仕方や学習時の姿勢、特別教室の使い方や給食のマナーなど、これまでの経験から、引き継いでいくべきことを子どもたち自身で選んでいたところに価値があります。2年生は、昨年育てたアサガオの種をプレゼント。本校でこうして引き継がれてきたアサガオと共に、生命を大切にする心も引き継がれることでしょう。1年生からは言葉と元気な歌でお礼の気持ちが伝えられました。

学校は多くの子どもと一緒に生活することで、周りを見て考え、共に学びながら育つ場です。大人から教えられることよりも、友達との関わりの中で学ぶことははるかに多くあります。しかし、284名が安心・安全と一緒に生活することは簡単なことではありません。世の中と同じです。そのため、必要なルールを定めています。参観日の懇談においても、ルールを守る態度や、社会通念上の「あたりまえ」を身につけさせていくことについて話させていただきました。

明治のはじめ、余市町を開墾し、今の黒川小学校の礎となる「日進館」という教育所をつくったのは旧会津藩の方々でした。その会津藩には、「什(じゅう)の掟」と呼ばれる教えがありました。「什」とは同じ町に住む6～9歳までの子どもで作られる10人前後の集まりです。教えの中には、「うそを言ふことはならぬ」「卑怯なふるまいをしてはならぬ」「弱い者をいじめてはならぬ」などあり、**【ならぬことはならぬものです】**と結んでいます。私はこの教えに、子どもを育てる「大人の覚悟」を感じます。そういう教えや精神は、余市町の子どもたち、そして大人の中にも、昔から引き継がれているのではないのでしょうか。本校でも、「他人の安心・安全を侵害することは**ならぬ**」という方針で対応して参りますので、ご理解ご協力をお願いいたします。

忘れていたわけではありません。運動会はいつできるのかで頭がいっぱいです。今年も町内の学校校務補のみなさんが集まって、草刈りや整地作業を行ってくださいました。あとはお天道様の協力さえ得られれば、発表の場は整います。今年度は「協力」ということを大事にできるよう、働きかけてきました。元気に体を動かす姿はもちろんのこと、協力し合う姿や、どんなことがあたりまえにできているのかにも目を向けていただきながら、ご声援いただければ幸いです。

